

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000374), 法人名 (医療法人社団 松島内科), 事業所名 (グループホームみのり1Fユニット), 所在地 (小樽市緑1丁目16番14号), 自己評価作成日 (平成28年1月25日), 評価結果市町村受理日 (平成28年3月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であり、入居者様の状態に変化があった際には適切に医療が受けられる。又、医療連携体制加算・看取り介護加算を算定しており、母体・施設側がご本人・ご家族様の希望があれば最後の住まいとして看取りを行なう事も可能である。また近隣のマッサージボランティアや近隣薬局の活用等あり、入居者様が地域の一員として暮らしていけるよう努めています。避難訓練など消防機関や消防設備業者・地域住民・町内会と参加を促し、災害の際協力をさせていただけるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JgvyosyoCd=0172000374-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年3月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建てのグループホームで、運営母体である内科医院・公園・商店・バス停も近く、生活環境に恵まれている事業所である。運営母体である医療法人は、昭和36年の開院以来、地域に根付いた医療に取り組む中で、介護の重要性を理解し医療と介護のトータルサポートを実践している。事業所内は、利用者が自分らしく尊厳を持って暮らせるように配慮しており、各居室には洗面台・クローゼット・ナースコール・温度計が完備され、馴染みの家具や家族写真を飾り、これまでの生活や暮らし方を尊重している。管理者及び職員は、高齢者の動作や心身の状態に合わせ、安心して穏やかな日常生活を送ることができるよう、適切な介護に努めており、家族の信頼も厚い。また地元の商店や薬局を利用することで地元とのつながりを深め、みのり祭りや防災訓練には近隣住民が参加している。音楽療法・マッサージ・二胡演奏等のボランティア訪問や、愛らしい幼稚園児が年数回訪問し、利用者と交流している。質の高いケアの実践と共に、利用者が持っている力を発揮しながら、安全で心豊かな暮らしを楽しめるように支援している、温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し、誰でも見られ実践できるように努めている。	法人の運営理念の他に、全職員で作成した事業所独自の理念を、各階に掲示している。理念は会議等で確認するとともに、全職員で共有しケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア(マッサージ)や薬の処方等、地域薬局・地域商店を活用し事業所自身が地域の一員として日常的に交流できる様に努めている。	年に数回、近隣幼稚園児が訪問し利用者とは交流している。おたる祭りには、町内の子供みこしが事業所前を通り、利用者の楽しみのひとつになっている。また音楽療法・マッサージ・二胡演奏等のボランティアの訪問も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や避難訓練等地域の方へ見学や来訪の依頼を促している。運営推進会議で内部研修や外部研修の報告等行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営状況や活動状況を報告し、意見・要望を伺い、サービスの向上に活かせるように努めている。	利用者家族・町内会役員・小樽市介護福祉課職員・地域包括支援センター職員等参加のもと開催している。事業所の取り組み・行事報告・避難訓練・災害時の対応等について協議し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議に出席できなかった家族や近隣住民にも、事業所の取り組み状況や外出・外食行事等が分かるような記録の方法を考え、読みやすく整備した議事録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内や記録を作成し、提出している。毎月利用状況調査票を作成し提出している。また、わからない事や疑問などあった際に相談するよう取り組んでいる。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。介護保険課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、誰でも閲覧できるよう設置し身体拘束をしないケアの実践に努めている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。玄関の施錠については、中から外には自由に出入り、入館はインターフォンで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	可能な限り虐待防止等の研修に参加し、防止に努めている。各ホールにマニュアルを設置、いつでも確認できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が中々ないが、研修等に参加するよう努めている。研修に参加した際は職員へ周知し、活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、内容を説明し、ご本人、ご家族様の不安や疑問点を尋ね、理解・納得して頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールへ苦情相談・ご意見箱を設置し、運営に反映できるよう努めている。また、ご家族様来訪の際コミュニケーションを図るよう努めている。	意見が出やすいように苦情箱を設置しており、利用者家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時の会話の中から意見要望を聞いている。家族が遠い場合は、電話で連絡を取り、意見要望を聞いている。	必要な情報の一つとして、日常的な散歩・外出・レクリエーション等、事業所の取り組み内容が家族に伝わるように、事業所便りの工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者と管理者が話せる会議を設けている。また、毎月全体ミーティングを行ない意見や提案を伺う機会を設け、反映できるよう努めている。	職員参加の全体ミーティングやユニット会議は月1度開催し、意見や提案を聞く機会がある。管理者は職員の心身の状態を考慮し、必要に応じ個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月代表者と管理者が話せる会議を設けており、職員状況や勤務状況を伝え、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	概ね毎月内部研修を計画しており、参加できるよう努めている。また外部研修の案内があった際には職員も参加できるよう職員へ通知し、参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や新年会等に参加し、ネットワーク作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をふまえ、事前訪問の際ご本人の困り事や不安に耳を傾け、ご本人のサービス利用開始にあたって安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたり、ご家族様が困っている事、不安や要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階でご本人、ご家族等が一番先に必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物等手伝って頂くよう努めている。又、レクの参加や他部署の行事に参加して関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ定期的に通信の送付や、行事の出席の確認や、ご本人に変化等あった際は、来訪時や、直接ご連絡したりと、関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の状況にもよるが市内のドライブに誘ったり、他科への定期受診、地域商店を活用するなど支援に努めているも、馴染みの関係が途切れてしまっている方もいる。	日本古来の風習や生活習慣を大切にし、事業所内では正月・節分・ひな祭り等を楽しみ、また家族と共に、昔馴染みの美容室や墓参りに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの参加を促したり、孤立しないように支援するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わっても、入院している場合は面会に行き、不安が無いように努めている。また相談があった際には、可能な限り対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーション等で、ご本人の状態を把握し、意向に添えるよう努めている。また、ご家族様の意向等も取り入れ、可能な限り、本人本位に努めている。	日頃の会話や表情、行動等から利用者の思いや意向の把握に努めている。また家族からも意見や意向を聞きながらケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣を本人、ご家族様から聞いたりサービス担当者から聞く等、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に合わせ、一日の過ごし方や、心身状態等の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや全体会議等で情報を共有し、より良い支援ができるよう努めている。ご本人・ご家族・医療機関等と相談し、出た意見を反映し、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づいた事等個人記録や業務日誌に記入し情報を共有するように努め、見直し等に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々にあったニーズを考え、ご本人やご家族様と相談しながら、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に外部との接触は少ないが、散髪、マッサージ、近隣薬局からの薬や、オムツ等の配達等してもらい、可能な限り地域資源を活用できる様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の往診があり、ご本人やご家族様の要望を取り入れ、その都度主治医に相談し適切な医療を行なえるよう支援している。	運営母体である内科医院のバックアップ体制が充実しており、医師は毎日のように往診に訪れ利用者の相談に応じている。事業所には、看護師が勤務し利用者の日々の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフは日常の関わりでとらえた情報や気づきを職場内の看護スタッフに伝え日頃の様子を把握してもらい、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療できるよう面会に行ったり、治療方針や現状を病院関係者に聞き、病院関係者との関係づくりを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約説明の時に終末期の指針を説明し、早期の段階から施設で出来る事を説明し、ご本人、ご家族様、医療機関と共に支援に取り組むように努めている。	重要事項説明書・運営規定に明記し、契約時に利用者や家族と話し合いをしている。状況に応じ医師・看護師・職員が方針を共有し、チームとして支援できる様に準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し迅速に対応できる様に努めている。また、定期的に内部研修を行ない、実践力を身に付けられるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜の避難訓練や自己防災点検を行ない、災害備品等の確認をしている。また消防や、地域住民に案内を出したり、参加を促すように努めている。	年2回消防署の協力の下、利用者や近隣住民、3階高齢者住宅入居者と共に避難訓練を行っている。缶詰・飲料水・毛布等の備蓄もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気分を害さないように声掛けには気を付けている。また、尊厳やプライバシーが損なわれないように努めている。	利用者本人の気持ちを汲み取り、プライバシーを損ねないよう言葉かけなどに細心の注意を払い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様全員は難しいが思いや希望がある時は傾聴し、可能な限り希望に添うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人のペースを大切に希望に添うように努めているも、職員側の都合や決まり事を優先している場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様全員は出来ていないが、可能な限りその人らしい整髪や服装ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューをホールに掲示し楽しみにしてもらうように努めている。準備、片付け等は入居者様の状況により難しい。	栄養バランスやカロリーに配慮し、利用者の希望を重視した食事を提供している。職員は、さりげなく食事介助をしながら、個々の嚥下状況や体調の確認をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記載して把握に努めている。また、可能な限り個々による食事摂取能力に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々により排泄チェック表を作成しており、排泄パターンを把握するように努めている。また、定期的な声かけを行なっている。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットのトイレは、使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や食事提供の工夫を行なっている。便秘改善の定期薬を処方されている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を設定している。個々に添った支援をするように努めている。	入浴は週に2回としているが、利用者本人の希望に合わせた入浴支援を行っている。シャワー浴や清拭に対応し、清潔に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで傾眠されている場合は、居室で休んでいただく等、環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルで管理し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。また、薬の変更があった際には申し送るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な行事・ドライブやマッサージボランティア来訪の支援をしている。個々に合わせた支援は難しいものの、役割やレクを支援するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と通院など協力し外出できる様に努めている。その日の希望に沿っての外出は、希望が無い為難しいが、2Fへ遊びに行ったり、他部署の行事に参加する等努めている。	日常的に、近くの商店街や公園などを散策している。また暖かい日には、玄関前のベンチを利用して日光浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に合わせお金を所持している方もいる。だが、殆どが家族様管理・施設管理である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合は、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を清潔に保ち、行事等に合わせた空間づくりや生活感・季節感を取り入れた環境に配慮している。	共用空間の壁には、利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレや浴室には手すりが効果的に配置されている。広い廊下には一休みできるソファを配置し、歩行訓練や運動を行っている。温度・湿度に気を配り、清潔で快適な居住空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で自席を決め気の合う方々同士が過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れている物をご家族様に用意して頂いており、居心地良く生活して頂けるよう配慮している。	クローゼット・ベット・洗面台・ナースコール・温湿度計を完備しており、昔馴染みの家具類や調度品を持参し、思い出のあるものを飾り、心地良く生活ができるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだり、掃除等を手伝って頂き、自立した生活を可能な限り継続できるよう努めている。		